

モロゴロ・ストアの奥まった一角にある
ティンガティンガ・コーポラティブ・
ソサイエティの工房



工房内に各自作業台を
与えられて、制作に打ち込む
ティンガティンガ・アーティスト

ツーリストの土産用に
路上で販売されている廉価な作品



作品の収集調査に
協力してくれた
木村 映子さん

アフリカン・ポップアート 「ティンガティンガ」

地球を
集める

和田 正平
(わだ しょうへい)

甲子園大学教授
国立民族学博物館名誉教授



タンザニア

アフリカ独特の「色と形」

一九九八年三月、民博開館三〇周年記念行事の一環として「サバンナの現代絵画 ティンガティンガの不思議な世界」を開催した。講堂ホワイエを特設展示場としたため、ティンガティンガ・コレクション一〇三点のすべては展示できなかったが、供覧できた七三点をおして日本の一般の人びともアフリカン・ポップアートの面白さを知ってもらうことができた。

近年、ティンガティンガがタバコ会社の電車内広告ポスターとして登場したり、某財団が途上国支援の資金作りを目的に絵葉書にして発売するなど、さまざまなティンガティンガ・アートを思わぬところで目にする機会が多くなった。ただ、美術界では一九八〇年代後半からエスニックブームが始まっていて、ティンガティンガも一部の好事家から注目されていたが、そのこ



る日本では、まだ知る人は少なかった。わたしもタンザニアのマクワ族が集まって描き始めたポップアートが、「マコンデの木彫」のように、国を代表するアートの一ジャンルを占めるとは思っていなかった。しかし、当時タル・エス・サラーム大学に留学していた木村映子さんをおして作品を見ていたうちに、そこに描き出されている「色と形」にどう考えてもアフリカ的な発想基盤からしか生まれてこない不思議な興味を感ずるようになった。

一九八六年はちょうど、ジャファアリー、ムーサ、ハッサニーといった画家たちが盛んに作品を発表していた時期に当たり、彼らの作品を収集したオルガニストの児玉麻里さんが池袋の百貨店でティンガティンガ絵画展を開催していた。もし民博でティンガティンガを収集するならばこの時宜だと判断した。できればよい作品でも、まだ価値は安かった。わたしはティンガティンガ収集計画案を委員会に提出した。

一〇〇点以上をひそかに収集

しかし、いくつかの問題があった。まず第一に、一点一点鑑定しながら多数のティンガティンガを収集するにはかなりの時間が必要だ。しかし、収集調査は短期間で完了するのが普通で、そんなに多くの時間はとれない。そこでわたしは、木村さ

んに協力をお願いして「ひそかに」収集を始めることにした。ひそかにというのは作品の買いつけを前もって彼女に依頼するということである。当時、画家たちは一様に貧しく、「ニユンバ・ヤ・サナー（芸術の家）」というシスター・ジーンが創設した芸術工房に作品をもち込むが、糊口をしのぐために一枚の板絵を抱えて、目当ての外国人の家々を回って売り歩く時代であった。そんな場当たり的にしか収集できなかった。そんな長期滞任している人でなければ、とも一〇〇点以上のティンガティンガ購入という、わたしの収集計画は実行できない。となると、木村さんをおいて頼むべき人はいない。幸いにして、彼女は画家たちに知り合いが多く、ライフ・ヒストリーなどの調査もおこなっていたので、わたしの頼みをふたつ返事で引き受けてくれた。

大学女子寮が収蔵庫

次の問題は、約一年かけて収集した作品をいったいどこに保管すればよいのかということだった。名案はなかった。彼女にまかせるにしても、物置きでは盗難のおそれがある。また、大学女子寮六階の一室に住んでいた彼女には作品を預かる空間的余裕はなかった。結局、部屋をかたづけては随時保管していたようだが、やがて収集

点数が多くなるにつれて、置き場所に困ったようだ。なにせエナメル・ペンキ画なので積み重ねるわけにはいかない。板絵と板絵のあいだに隙間を作って保管しなければならず、ベッド以外の空間はしだいにティンガティンガに占拠されていったようである。

わたしが収集品を引きとりに行ったとき、大学女子寮を訪問してみると、踏み場がないほど彼女の部屋はティンガティンガでいっぱい、まさに収蔵庫といった感じになっていたのである。これまでもそうだったが、海外収集調査には現地の駐在員や関係者など多くの人びとの協力が必要になるが、こんな迷惑をかけたことは初めてだった。

しかし、おかげでティンガティンガ派でもっとも著名になった画家ジャファアリー初期の作品一〇点が収集されたので、大きな収穫だった。現在、彼の手になる作品はとも高価になり、もはや民博の収集調査費では手が届かなくなっている。ただ、最近はその後を追う新人画家が多数輩出している。

二〇〇五年の夏、わたしは現地モロゴロ・ストアの一角にある工房を訪れたが、これまでのティンガティンガ派とはかなり違った画を描くアーティストが誕生していた。民博は次のティンガティンガの収集を考える時期にきたように思われる。